

「雪」という言葉に過剰反応を示すのが毎年新春祭りの一週間前。「雪が降ったらお客さんの足に影響するかも」とか「大雪になったらパフォーマーが来られなくなって最悪私が歌って踊るしかないかも」とか「ボランティアの皆さんは大丈夫かなあ」「電車が止まっちゃったりして」等など、新春祭り企画担当の一人としてはとりとめもない心配事が瞬時に頭の中を駆け巡るからです。

そして今年の新春祭り一週間前の「大雪警報」。一瞬心臓が止まりそうになりました。当たってしまった天気予報のお陰で学校は2、3日お休みとなり、オフィスも閉まり、町は塩まみれとなり、気温は氷点下10度を切るという極寒の地と成り果てたDC。

一体どうなるのやら、と思っていたらその後は快晴が続き新春祭り当日の1月26日も真っ青に澄み切った空となりました。

朝7時には予定通り準備が始まり会場のワシントンプラザホテルの一階は鳥居に賽銭箱とみるみるうちに日本化して行きます。10時にはボランティアの皆さんも続々と集まって下さり、そこここで法被姿で行われるミーティングを見ていると「あー、日本だなあ」と嬉しくなってしまうのです。

開場は11時ですが、毎年沢山のお客様が早くから並んで下さるのでちょっと早めにドアを開けます。今年は昨年に比べて外国人のお客が多いようで、初の日本商工会と日本商工会財団の共催となった今回の新春祭りは立派に日本の文化をアメリカの皆様にご紹介するという目的の一つを果たしているなあ、とここでまた感慨ひとしおです。

そしてこの地にお住まいの多くの日本の皆様が家族で訪れて下さる姿を見ると、またまたここで「あー、良かったなあ」と思ってしまうのです。少しでも皆様に喜んで頂ける様にと企画担当の栗林さんと実行委員の皆さんと一緒に昨年からずっと案を練って来たので。

大雪の恐怖を乗り越えそのような感慨に浸っているうちに駐米全権大使佐々江大使が奥さまの信子夫人とご到着です。バックグラウンドには地元の太鼓グループが打ち鳴らす太鼓の音が響き渡り緊張と期待が高まって来ます。

佐々江大使と柳原商工会会長に開会のお言葉を頂き、ハンター紀子先生と武部龍君、武部碧さんによる国歌斉唱があり、無事にプログラムがスタートです。今年のプログラムにはお子さん達によるパフォーマンスが数多くあるからでしょうか、観客にはご家族も多いようで観客側もとっても和気あいあいとした雰囲気です。

グレートフォールズ小学校のお子さん達、津軽三味線、ワシントン日本語学校の生徒さん達、静美こども舞踊団の皆さん、琉球太鼓チーム、そしてジャパニーズ・コーラル・ソサエティ・オブ・ワシントンと共演なさったお子さん達。一生懸命演じる子どもたちの清々しい姿にはいつも感銘を受けます。そして元気も。アメリカの子どもたちそして日本の子どもたちが一緒になって素晴らしい舞台を作る姿を目の当たりにして、次世代の強固な日米関係を期待してしまうのです。

ボランティアにも中学生や高校生が沢山応募して下さいました。一緒に働く姿を見てみると、新春祭りの役割をここにも感じます。懐かしい日本のお菓子やおもちを説明しながら売ったり、かるたや剣玉などゲームのお手伝いをしたり、日本を感じる事が出来たのではないのでしょうか。

そして忘れてならないのが日本食です。毎年商工会婦人部の奥様達で作って下さるお餅は新春祭りのハイライトの一つで、きなこ、餡、海苔とどれから食べようか迷いながら私も必ず一皿食べています。今年もふんわりとおいしかったです。その他にも助六寿司におでん、カレー、うどん、肉まん、あんまん、たこやきと人気の日本食が並びました。新春祭り終了間近に売り切れとなり数量も完璧です。

時間通りの3時に今年も無事閉会を迎える事が出来ました。そして「撤収！」のかけ声です。その一言がとても寂しく聞こえました。皆さんと一緒に作り上げた数時間の日本は、暖かくて、懐かしくて、そしてとても楽しかったから。

これも当日会場に訪れて下さったお客様、パフォーマーの皆さん、ボランティアの方々、そしてパフォーマーやボランティアをして下さったお子さんの親御さん達、おいしい食事やお餅を作って下さった皆様、実行委員の皆様のお陰です。素敵な新春祭りにして下さいました 1000名を超える皆様、本当に有り難うございました。

来年も宜しくお祈りします！